

平成 30 年 4 月 23 日(月)沖縄学習出発式校長挨拶

こんにちは。嬉しそうな顔をしているね。ここでまず皆さんに言いたいことは、「元気で帰って来い」それから「大いに学び大いに楽しんで来い」ということだ。だけど学年主任の中井先生が私をここに呼んだのはこういうことをしゃべるためではないだろう。

期待で胸を膨らませていると思うが、ここは襟を正して聞いて欲しい。それは平和学習についてだ。

「沖縄で平和学習をしてくる」「沖縄で平和を学んでくる」と思っていたら、それは大間違いだ。君たちは物見遊山に行くのではない。まずは君たちの思いも想像もつかないことを、その身で体験してきなさい。だが「体験」はそれを考えることをしなければただ過ぎ去るだけである。言葉に尽くすことの出来ない体験は、それをどこまでも考えることによってのみ、学ぶことが出来る。そこで第一の戒め。大きな声で復唱しなさい。

「学んだ気になるな。学び続ける身になって来い！」

第二の戒め。見た気になるな。目に見えるものばかり見ていては何も見たことにならない。目に見えないものを見て初めて見たことになるのだ。現在校長室の前には「円はどこにある？」という問いを掲げてある。円自体は目に見えないものだ。それを見ることによって始めて円を見たことになる。それと同じことが平和学習についても言える。24 万人以上の犠牲者の名が刻まれた礎（いしじ）。24 万という数字も、一人ひとりの名も目に見えるものだが、それだけをいくら見ていても何も見たことにはならない。一人ひとりの名が刻まれるに至った、その由来を見るのだ。目に見える文字の前を見るのだ。そうすると一人ひとりの「いのちの相（すがた）」が見えてくる。その人が生まれ、育ち、何に喜び、そうして最後はどのような悲しみの中で死んでいったか、その「いのちの相」が見えてくる。そうして君たちはその同じ深い悲しみを自らの内に見出す。このようにして人間は人間になっていくのだ。これが「人間を学ぶ」ということなのだ。そこで第二の戒め。復唱しなさい。

「見た気になるな。見えないものを見てこい！」

第三の戒め。分かった気になるな。決して「戦争の悲惨さが分かりました。平和の大切さを知りました」などと簡単に口にしてはならない。平和と戦争を分けて白黒つけるのは平和学習でもなんでもない。戦争は人間の本質にかかわる根の深いものだ。人間は最後のところで分かり合えないということを抱えているからだ。今平和のように見えても一たび譲ることのできない問題が生ずれば人は理念を掲げ、正義を振りかざして、文字通り命がけで戦う。それは夫婦や友達でも同じことだ。どれほど仲の良い夫婦であっても、子供の教育方針が決定的に違えば離婚問題に発展する。太平洋戦争でも当時の第一級の知識人がこ

ぞって戦争に賛成した。平和を簡単に分かったつもりになっている者は、いざとなれば同じように簡単に戦争を賛美し、推進する者に転ずるだろう。それで最後の戒め。大きな声で復唱しなさい。

「分かった気になるな。深く葛藤しろ！」

最後にもう一度、元気で帰って来てね。そうして大いに学び、大いに楽しんできてね。終わります。

